

# 学校関係者評価

大阪観光ビジネス学院は、「2024 年度学校自己点検報告書」の結果をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

2025 年 6 月 4 日  
大阪観光ビジネス学院

## 学校関係者評価委員

岩田 順敬 大阪観光ビジネス日本語学院校長  
渡部 美智子 大阪観光大学教授  
植田 輝美 大阪観光ビジネス日本語学院生野校教務主任  
王 丹 卒業生代表  
阿武 優花 K. K. リゾートライフ課長  
河田 真一 司法書士事務所代表  
佐藤 功 建築設計事務所代表  
張 福軍 佳和商事株式会社社長  
本木 秋実 大阪観光ビジネス日本語学院 事務局長  
森 義晴 近畿日本語学院校長

## 評価領域ごとの学校関係者評価・意見

I. 学校経営	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍の影響で財務的には厳しい状況であったと思われるが、その後、回復しており、今後も良好な財政状況の下で、充実した学校運営を行ってほしい。</li><li>・学生や教職員及び学外の委員の意見を十分に取り入れる機会を引き続き作っていただき、学校運営に活かしていただきたい。</li></ul>
II. 教育課程・ 教育活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育課程は、委員会や先生方の創意工夫で適正に行われていると思うが、学生の状況や社会のニーズなども十分把握して、教育実践を進めてほしい。</li><li>・卒業後のニーズを踏まえた教育活動を進めるに当たっては、教育内容が適切か学生の能力にあったものになっているかなど細かい点についても留意されることは必要と思う。ことに、入学時の外国人留学生の日本語能力が低下しているとの指摘もあるので、そうしたことへの十分な配慮と指導が必要と考える。</li></ul>
III. 入学・ 卒業対策	<ul style="list-style-type: none"><li>・募集活動については、以前に比べ良好な傾向と思われるが、良好であればそれなりの数の入学生があり、卒業時の進路、ことに就職対策については、これまで以上のエネルギーが必要になってくる。企業への広報、また、本校の教育活動、実績を企業に理解していただく場を設けるなどの工夫が求められると思う。</li><li>・採用する側からは、コミュニケーション能力と協調性をしっかりと身に付けられる学校教育をお願いしたい。</li><li>・2年間という非常に限られた短い期間であるので、入学時点から就職を念頭に置いた教育が必要と考えます。知識、技能だけでなく、社会性や向上心の育成を念頭に教育していただきたい。また、自己点検にも書かれているが、わが国での就労、生活のイメージが乏しい学生が、様々なことへ積極的にアプローチできる学習機会を設けてほしい。</li></ul>

<p>IV. 学生生活 への支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人留学生が多く、様々な点で困っていたり、悩みを抱えた学生が多くいると思います。担任制を行い、週に一度のホームルームをされているということなので、そうした機会を利用して、学習活動以外での支援が必要と考えます。</li> <li>・就職するための知識、技能以外に社会生活では必要なことが様々にあります。例えば、地域の人々と共に穏やかに過ごすための行動様式、知識、技能を身に着ける学習活動の時間以外に、学校生活での指導が必要と考えます。</li> </ul>
<p>V. 管理運営・財政</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時期厳しい財政状況であったと思いますが、今後は募集活動も正常に戻り、財政的にも安定していくとは思いますが、やはり、選ばれる学校にならないと決して安定した運営はできない。選ばれる学校になるためには、第一には卒業後の進路先、すなわち就職先がしっかりと確保できるということだと思うので、そうした視点で、学習指導や学校の管理運営をしていただきたい。</li> </ul>
<p>VI. 施設設備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備自体、経年劣化しているものもあると思います。その都度、適宜、改修は適切にされていると思いますが、学生が安心、安全、そして快適な環境の中で学習活動が行えるよう、迅速な対応をお願いしたい。</li> <li>・学習効果を上げるためにも、また、学生から選ばれる学校になるためにも、財政的な負担もありご苦労はあると思うが、指摘があった時は適切に対応をしていただきたい。</li> </ul>
<p>VII. 教職員の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で即戦力となる知識、技能を身に着けることが専門学校には要求されている。僅か2年間という期間で専門の知識、技能を身に着け、外国人留学生が日本語能力を向上を図るのは、先生方の教育力にかかっている。校内でのFD研修を通して教育力を高める取り組みや、外部の講師による指導の機会を設けておられると聞いている。是非、そうした機会を100パーセント活かして、実践力が養われる授業力を身に着けて頂きたい。</li> </ul>
<p>VIII. 広報・地域活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動は、学校の募集活動の生命線であると言ってよいと思います。生徒、学生を招いての学校説明会の開催、教育機関に出向いての説明会などされているが、重要なことであるので、是非、活発に行っていただきたい。</li> <li>また、以前からボランティア活動で地域の清掃などをされている。非常に重要なことと思う。地域の方からの理解、一方で「地域貢献」という意識を学生に持ってもらうことは大切な教育であると思う。また、大阪観光局が主催する様々な取り組みにも参加されているが、異年齢の児童生徒との交流、また大阪の人、大阪の街を理解するという点で視野が広がると思われる。</li> </ul>

## 学校関係者評価総括

「2024 年度学校自己点検報告書」の結果をもとに学校関係者評価を実施いたしました。

コロナ禍以降、少しずつ以前の状況に戻りつつある。学生数も増え、学習活動、学生の生活指導に教職員がご苦労をされている様子がうかがえる。コロナ禍での学生数が少なかった時に比べて学生数が増加した分、学習指導、生活指導の面においても教職員間の情報共有の迅速性、的確な指導が求められる。

本校に求められことは、専門学校の卒業生として、即戦力としての知識、技能はもとより、重要

な課題となっているのは外国人留学生の日本語能力の向上、日本社会で円満に生活をする力の育成であると思う。即戦力としての知識、技能、加えて日本語の力、という点や多様化する企業のニーズなどの視点から、企業でのインターンシップの重要性が益々大きくなってきていると思う。そうしたことから、先生方の教育力が求められていることから先生方の研修の実施も学校運営の大きな課題であると思います。

出席管理やクラス担任制で学生に適切に支援・指導をしていただいていることから、退学率も抑えられているように思える。こうした、日々の細かい指導が必要である。

また、社会性や協調性を養うために、教室での学習活動以外に、現在、取り組まれている、サークル活動やボランティア活動、また、学校外の企画への参加は、先生方から学生に向けて、そうしたことの重要性を説いていただき積極的に参加するよう勧めて頂きたい。

以上